



平和首長会議  
Mayors for Peace

## 広島の被爆樹木二世：イチョウ

Second-generation atomic bomb survivor tree from Hiroshima: Gingko tree



(広島の縮景園内の親木)

Mother tree Ginkgo

1945年8月6日午前8時15分、一発の原子爆弾により広島は街は廃墟と化し、その年の暮れまでに14万人もの市民が亡くなりました。

被爆樹木は、被爆の惨禍に遭いながらも、焼け焦げた幹から再び芽吹き、市民に生きる勇気と希望を与えるとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え掛けています。

貴自治体にお贈りしたこのイチョウの二世が大切に育てられ、多くの人々に愛されることにより、貴自治体の平和のシンボルとなることを心から願っています。

平和首長会議

このイチョウは、生き残った親木の種から発芽したものです。親木は爆心地から1,370メートルの距離にある縮景園（広島市中区上幟町）で被爆しました。樹齢200年以上と推定されている親木の幹は爆心地方向に傾き、爆心地側にはケロイド状の傷痕があります。被爆イチョウの種として、海外に贈られ、平和を訴えています。右のQRコードを読むと、被爆樹木の位置情報が表示されます。

